

付けたい力〔3〕 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

(1) 考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする〔

- 小川さんは、ものがたり「モチモチの木」を読んで、登場人物がどのような人物なのか、考えたことをノートにまとめています。次は【小川さんのノート】です。
これを読んで、あとの問いにこたえましょう。

『モチモチの木』
(光村図書 三年下)
(東京書籍 三年下)

【小川さんのノート】

場面	豆太の行動や会話、様子	豆太についてわかること
おくびよう豆太	・夜中には、じさまについてても られないと、一人じゃしょうべん もできない。 ・「やい、木い、モチモチの木い、 実い落とせえ。」 ・昼間は木の下に立って、かた足で 足ぶみする。	こわがり おくびよう
やい、木い	・「それじゃあ、おらは、とっても だめだ。」とちっちゃい声でなき そうに言った。	弱虫 こわがり
霜月二十日の ばん	・大すきなじさまの死んじまうほう が、もつとこわかったから、なき なきふもとの医者様へ走った。	ゆう気がある やさしい
豆太は見た	・豆太は、じさまが元気になると、 そのばんから、しょんべんに じさまを起こす。	おくびよう あまえんぼう
弱虫でも、 やさしけりや		

①

に入る言葉は、どれですか。次のア～オから二つえらび、その記号を

書きましょう。

- ア てれや
イ つよがり
ウ すなお
エ れいぎ正しい
オ いばりんぼう

--	--

二 小川さんはノートに書いたことや教科書をもとにして、「豆太」のせいかくを【登場人物しようかいカード】にまとめることにしました。あなたが小川さんなら、どのようにまとめますか。次の「へじょうけん」に注意して書きましよう。

へじょうけん

○ には、「小川さんのノート」の豆太についてわかることから

つ以上の言葉を取り上げて書くこと。

○ には、書き出しの言葉につづけて、教科書の文章から文や言葉を二つ以上取り上げて書くこと。

【登場人物しようかいカード】

豆太は、

男の子です。

そう考えたのは、

一 イ・オ

二 (例)

・(豆太は、)こわがりだけどゆう気がある(男の子です。)

(そう考えたのは、)冬の真夜中に、モチモチの木をたった一人で見に出るなんて、とんでもねえ話だと言っていたけど、じさまがびよう気になったときは、こわくてもたった一人で、真夜中に医者様をよびに行ったからです。

・(豆太は、)ゆう気があるやさしい(男の子です。)

(そう考えたのは、)ふだん、夜中には一人でせっちんにも行けないけれど、じさまがびよう気になったときは、こわくても真夜中に一人で医者様をよびに行ったからです。

※正答基準

〔 〕の記述は、複数の叙述をもとに書かれている。

《登場人物がどんな人物かを考える》

○指導のポイント

物語文を通して、「登場人物の気持ちや性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」を指導します。このお話は、場面の移り変わりによって、揺れ動く豆太の気持ちがかかれ、しかも豆太の性格が多面的に描かれています。複数の叙述を結び付けながら、豆太の気持ちの変化を見いだして想像したり、豆太の境遇や状況を把握し、物語全体に描かれた行動や会話に関わる複数の叙述を結び付けたりしながら、豆太の性格を具体的に想像することが大切です。

令和四年度学習全国学力・学習状況調査において、本単元の指導事項が踏まえられた設問では、課題が見られました。令和四年度「基礎学力調査」―分析・考察と指導事例―の事例や令和四年度全国学力・学習状況調査報告書の授業アイデア例などを参考にしながら、指導を工夫することが大切です。

○活用のポイント

本問題は、「C読むこと」における指導事項、(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」を踏まえた問題です。光村図書三下、東京書籍三下の『モチモチの木』の学習後、定着を図る問題として活用できるように設定しました。教材文から根拠となる叙述を抜き出せるように、教科書を手元において、問題に取り組むとよいです。単元末に、学習したノートを活用しながら、本問題に取り組むこともできます。